



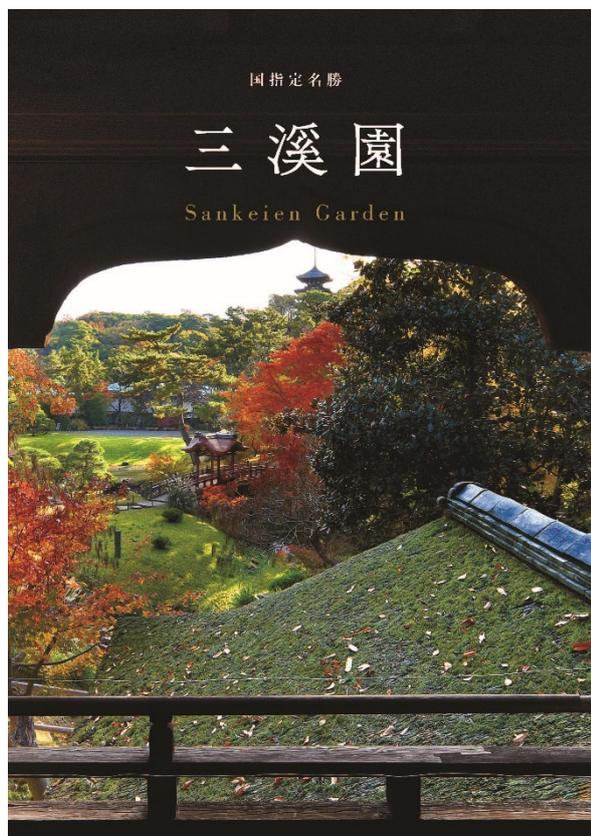
三溪園の散策がより楽しめる 横浜・三溪園 「三溪園ガイドブック」発売

国指定名勝「三溪園」（所在地：横浜市中区）では、2026年3月24日から、来園者の皆様に、園の歴史的背景や文化的価値をより深く知っていただき、園内散策を一層楽しんでいただくため、新たに「三溪園ガイドブック」を発売します。

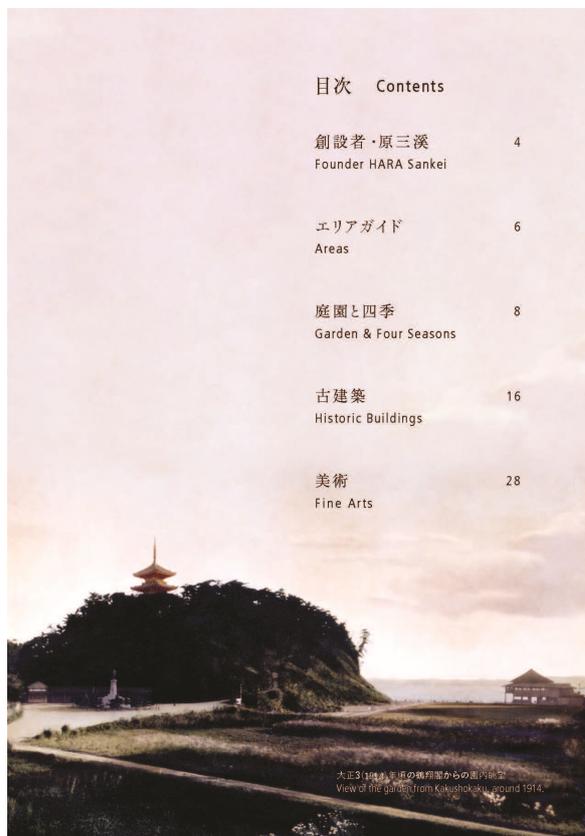
今回のガイドブックは、原三溪の物語や視点を辿りながら園内を歩く構成とし、三溪の想い＝園の魅力＝園の本質的価値を理解できる一冊となっています。四季折々の庭園風景や、園内に点在する17棟の歴史的建造物を、豊富な写真とわかりやすい解説でご紹介しています。また、海外の方にも楽しんでいただけるよう、日英併記としています。

表紙には、三溪園の魅力を広く発信していくことを目的に開催している「三溪園フォトコンテスト」の審査員でもある森日出夫氏（日本写真家協会会員）の作品です。

新しいガイドブックを片手に、三溪園の魅力をより深く味わいながら園内散策をお楽しみください。



《表紙》



《目次》

※古写真（1914年頃）

販売概要

- 販売期間 | 2026年3月24日(火)～
販売場所 | 正門案内所
販売時間 | 9:00～16:15
価 格 | 500円（税込）
仕 様 | A5判冊子（32ページ）

ガイドブックの特徴

- ・原三溪の造園構想、コンセプトがわかる
- ・四季の庭園、花・鳥、古建築、収蔵品などを豊富な写真でご紹介
- ・専門用語を多用せず、中高生でも読みやすい文章で構成
- ・海外の方にも楽しんでいただくため、日英併記

主な内容

- ・はじめに（成り立ち・背景）
- ・園内MAP（ゾーニングごとの作庭意図をご紹介）
- ・庭園の四季（写真中心）、専門家による解説
- ・花や鳥の見どころ
- ・園内古建築の全体像、専門家による解説
- ・17棟の古建築紹介
- ・美術（三溪記念館・収蔵品紹介）
- ・各ジャンル別のコラム ほか

三溪園について

三溪園は生糸貿易により財を成した実業家・原三溪によって創られ、1906年（明治39）5月1日に一般公開されました。約17.5ha（東京ドーム約3.7個分）に及ぶ園内には、廃仏毀釈などによる荒廃から守るため、京都や鎌倉などから移築された歴史的価値の高い建造物が巧みに配置されており、古建築と自然が調和した四季折々の景色が楽しめる日本庭園です。開園当初は「遊覧御随意」を掲げ外苑を24時間無料開放するなど、「美しいものはみんなで一緒に楽しむもの」という原三溪の想いが反映されています。原三溪の存命中は新進芸術家の育成と支援の場ともなり、横山大観、下村観山、前田青邨らを輩出するなど、日本美術への貢献も評価されています。戦災により大きな被害をうけ、1953年（昭和28）に原家から横浜市に譲渡されるのを機に財団法人三溪園保勝会が設立され、現在に至ります。2007年（平成19）には国の名勝に指定され、現在園内にある17棟の古建築のうち10棟が重要文化財、3棟が横浜市指定有形文化財に指定されています。



原三溪について

原 三溪（本名 富太郎）＜1868（慶応4）年 - 1939（昭和14）年＞

岐阜県厚見郡佐波村（現在の岐阜県岐阜市柳津町）で代々に渡り、庄屋をつとめた青木家の長男として生まれる。幼少の頃から絵・漢学・詩文を学び、1885（明治18）年、東京専門学校（現在の早稲田大学）に入学、政治・法律を学ぶ。1888（明治21）年頃に跡見学校の助教師になり、1891（明治24）年、原善三郎の孫娘、屋寿と結婚し原家に入籍。原家の家業を継ぐと、経営の近代化と国際化に力を入れ、実業家として成功を収める。住まいを本牧・三之谷へ移すと古建築の移築を開始し、1906（明治39）年、三溪園を無料開園。1923（大正12）年の関東大震災後は、荒廃した横浜の復興に力を注ぐ。三溪自身も書画をたしなみ、その作品の一部は、園内の三溪記念館に収蔵されている。



施設概要

施設名	三溪園(さんけいえん)
運営	公益財団法人三溪園保勝会
所在地	〒231-0824 神奈川県横浜市中区本牧三之谷 58-1
連絡先	TEL 045-621-0635
公式HP	https://www.sankeien.or.jp
Instagram	https://www.instagram.com/sankeien_garden
X	https://twitter.com/HSankeien
入園料	大人 900 円 / 小中学生 200 円 横浜市内在住の 65 歳以上 700 円(本人確認書類の提示が必要)
開園時間	9：00～17：00(最終入園 16：30)
アクセス	JR 根岸線根岸駅から市営バスで 10 分「本牧」下車、徒歩 10 分 横浜駅東口から市営バスで 40 分「三溪園入口」下車、徒歩 5 分



本リリースに関する報道関係者からのお問合せ

公益財団法人三溪園保勝会 企画広報課 高橋

TEL：045-621-0635 / FAX：045-621-6343

MAIL：websupport@sankeien.or.jp